

令和 2 年 6 月 15 日現在

機関番号：23901

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2016～2019

課題番号：16K20795

研究課題名（和文）保育器で過ごす子どもと母親の間の心理的距離に関する看護師評価尺度の開発

研究課題名（英文）Development of a Assessment Scale for Nurses about the Psychological Distance between Infant in the Incubator and Mother

研究代表者

天草 百合江 (AMAKUSA, YURIE)

愛知県立大学・看護学部・助教

研究者番号：10757545

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,000,000円

研究成果の概要（和文）：保育器で過ごす子どもと母親の間の心理的距離に関して、母親・NICU看護師双方の認識とその関連要因を明らかにするとともに、NICU看護師が母子の心理的距離をアセスメントする際に有効な尺度の開発をすることを目的とする。

まずは、文献検討から、母親とNICU看護師のそれぞれの認識と思いの明確化を行い、その後、研究者自身のこれまでの研究成果も踏まえて、28項目の尺度案を抽出した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

保育器で過ごす子どもと母親は、適切なアセスメントを受けることで、母子の状況により適した看護援助を受けることができ、母親の抱える複雑な思いや子どもとの未来を踏まえ子どもとの心理的距離を縮めていくことで、愛着形成を分離がもたらす不安や退院後の育児への不安の軽減にもつながると考える。

また、NICU看護師は、保育器の存在を再認識し、子どもが保育器で過ごすことが母親にもたらす影響を考え、母親の言動や行動、思いや子どもとの状況や成長発達をより意識することから、アセスメント能力向上といった教育的意義も期待できると考える。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this study was to clarify how perceptions and related factors both the mothers and NICU nurses about psychological distance between infant in the incubator and mother, and to develop a scale used by NICU nurses to assess their psychological distance.

First, the literature review clarified the perceptions and thoughts of mothers and NICU nurses, and in addition to the research results of the researchers themselves, 28 scale items were extracted.

研究分野：小児看護学

キーワード：保育器で過ごす子ども 低出生体重児 母親 心理的距離 NICU

## 様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

毎年、100万人を超える新生児が出生しているが、その1割が出生体重2500g未満の低出生体重児であり、また全出生に占める低出生体重児の割合は年々増加している。低出生体重児の中でも、その未熟性からNICU(Neonatal Intensive Care Unit: 新生児集中治療室)へ入院し、出生直後より胎内環境に近づけた閉鎖式保育器(以下、保育器とする)内での治療や養護を必要とする子どもも多い。保育器で過ごす期間は、子どもの状態により大きく異なり、数日の場合もあれば、出生体重1000g未満の超低出生体重児では2か月近くとなる場合もある。

NICU入院による親子分離は、親子関係形成を阻害すると言われているが、保育器で過ごす子どもと家族は、NICU入院による分離に加え、さらに保育器で過ごすことによる二重の分離状態であると言える。申請者がNICU看護師として勤務していた時、両親の面会時の言動や行動から、保育器で過ごす子どもと両親の心理的距離は遠いが、コット(新生児用ベッド)に移床することで心理的距離は急速に接近するという印象を持っていた。そのため、保育器が両親と子どもの間の心理的距離を遠ざけているのではないかと考えた。NICUに入院した子どもと母親の関係形成に関する研究(橋本, 2000; 藤本他, 1999)はされているが、親子関係に注目しており、保育器やその他治療に焦点を当てたものではない。母親になっていく過程で重要なターニングポイントは保育器を出る時期である(Jackson, et al., 2003)と言われているが、NICU入院から退院までのプロセスの中で一部述べられているのみであり、保育器で過ごす時期に焦点を当てた研究はない。

そこでまず、保育器で過ごす子どもの母親が保育器からどのような影響を受けているのかを明らかにするために、低出生体重児の母親に対して保育器が及ぼす影響に関する調査(天草・山口・服部, 2016)を行った。保育器で過ごした低出生体重児の母親20名を対象に半構造化面接を行い、修正版グラウンデッドアプローチ(M-GTA)で分析した結果、「保育器治療を必要とする低出生体重児を出産した母親の保育器に対するイメージの変化のプロセスとそれに関連する心理過程」が明らかとなり、保育器が及ぼす影響は、母子間の心理的距離を拡げるといったネガティブな影響だけでなく、保育器があるからこそ安心して「どこか壊れそうな赤ちゃん」に近づけるといったポジティブな影響もあり、初めはネガティブな影響が大きいものの、徐々にポジティブな影響へと変化していた。ネガティブな影響からポジティブな影響へと移行する転機は、保育器が子どもを守ってくれているという気づきであった。

また、NICU看護師は保育器で過ごす子どもと母親の間の心理的距離をどう感じているのかを明らかにするために、保育器で過ごす子どもと母親の間の距離感に関する調査(天草・山口, 2014)を行った。全国の総合周産期母子医療センターのNICU看護師1705名に対して質問紙調査を行った結果、子どもがコットにいる場合よりも保育器にいる場合のほうが距離感が大きく、子どもの見た目や受けている治療という子どもの要因や、性別や年代などのNICU看護師の個人背景が影響していることが明らかとなった。

家族形成期にある家族が、子どものNICU入院・保育器内での治療という危機を乗り越え、新たな関係性を育んでいくためには、子どもが保育器で過ごしている時期からの支援が重要である。支援を行うためには、母子だけではなく、保育器で過ごす子ども・母親・父親・同胞という家族員同士のサブシステムに焦点を当てた家族側の調査と、合わせて支援を行うNICU看護師側の調査もを行い、「保育器で過ごす子どもをもつ家族の家族形成支援プログラム」の開発を行う必要性があると考えた。

### 2. 研究の目的

保育器で過ごす子どもと家族は、NICU入院による分離に加えて、保育器で過ごすことによる二重の分離状態にあると言える。しかし、NICU入院に焦点を当てた母子関係形成プロセスの研究はされているが、保育器に焦点を当てた研究はない。本研究は、保育器で過ごす子どもと母親の間の心理的距離に関して、母親・NICU看護師双方の認識とその関連要因を明らかにするとともに、NICU看護師が母子の心理的距離をアセスメントする際に有効な尺度の開発をすることを目的とする。

### 3. 研究の方法

#### 1) 母親・NICU看護師それぞれの認識と思いの明確化

医中誌Web Ver.5を用いて、それぞれ文献検討を行い、母親とNICU看護師、それぞれの認識と思いの明確化を行った。

#### 2) 保育器で過ごす子どもと母親の間の心理的距離に関する看護師評価尺度の開発

1)の段階と研究者自身のこれまでの研究成果を踏まえて、尺度案を抽出する。その後、新生児集中ケア認定看護師を対象とした調査を行い、分析の結果、必要があれば、尺度案項目の追加・削除、文言の修正等を行う。その後、NICU看護師を対象に、複数のペーパーペイシエントを示した上で、修正した尺度案を用いた調査を行う。

### 4. 研究成果

#### 1) 母親・NICU看護師それぞれの認識と思いの明確化

NICUに入院している子どもと母親への援助

「親子関係」「母子関係」「早産児」「低出生体重児」「NICU」「保育器」「母親」というキーワード

ードを組み合わせ、原著論文のみを対象に検索を行い、367件が抽出された。タイトルや抄録を読み、NICU入院中の子どもと母親の親子関係形成について書かれている文献に限定し、20文献を対象とした。

その結果、研究対象は、母親が16件、両親が2件、NICU看護師が2件であり、記述内容は以下の5つに分類された。

NICU入院中の母子関係形成に関する母親の経験や思いに注目した「NICU入院中の親子関係形成」8件、子どものNICU入院によって母親が経験したこと全てを捉え、その一部として親子関係形成の記述を含む「NICUでの母親の経験」6件、親子関係形成を通しての母親の自己形成に注目した「母親のアイデンティティ形成」3件、母親の支えとなった看護援助に注目した「看護援助に対する母親の思い」1件、NICU看護師の親子関係形成に対する援助への思いや認識に注目した「NICU看護師の親子関係形成に関する思い」2件であった。このうち、入院初期に焦点をあてた文献は1件、子どもが保育器で過ごす期間に焦点をあてた論文は2件であり、多くがNICU入院に焦点をあてた文献であり、その一部として保育器で過ごす時期のことが書かれていた。

NICUにおける母子の親子関係形成に関しては、様々な面から研究されているが、子どもが保育器で過ごす期間に焦点をあてた研究はほとんどされていなかった。子どもが保育器で過ごす期間が長期間となる場合も多く、早期から今後の親子関係を見据えた関わりが必要と考えられる。

### NICUに入院する低出生体重児の母親の思い

「NICU」「低出生体重児」「母親」「思い」「体験」「経験」「心理過程」「心理的支援」というキーワードを組み合わせ、原著論文のみを対象に検索を行い、390件が抽出された。タイトルや抄録を読み、NICU入院中の低出生体重児の母親の思いについて書かれている文献に限定し、22文献を対象とした。

その結果、研究対象は全て母親であり、記述内容は以下の5つに分類された。

児への罪悪感や申し訳なさを感じつつも母親である自分と児との関係性に向き合い、親子関係を紡いでいく過程に注目した「親子関係形成に関する思い」15件、母乳育児を通して母親であることを実感し、母親役割を模索することに注目した「母乳育児に関する思い」が3件、転棟による児の捉え方や母親自身の気持ちの変化に注目した「治療環境の変化に関する思い」が2件、母親が抱く育児への思いの変化と児に合わせた育児方法の模索に注目した「育児に関する思い」1件、母親が受けたと捉えた看護援助に注目した「看護援助に関する思い」1件であった。

低出生体重児の母親は、親子関係形成や育児といった児との関係性だけではなく、母親としての自分、看護援助や治療環境にも目を向けており、またこれらの要因が影響を及ぼしあって様々な思いを抱えているのではないかと推察された。

## 2) 保育器で過ごす子どもと母親の間の心理的距離に関する看護師評価尺度の開発

1)の段階を踏まえ、全28項目からなる尺度案を作成した(表1)。これらの項目について、それぞれ重要性、妥当性、実施可能性について6段階で回答を求め、さらに尺度案に対する自由記述、個人属性からなる質問紙を作成した。しかし、研究実施の直前で、心身の不調により研究者自身が研究期間満了まで休職となったため、質問紙調査の実施はできなかった。

表1 尺度案

1) 母親の面会の頻度は変わらない、もしくは増加している	15) 母親は、児の入院の現実の受けとめができている
2) 母親の面会時の滞在時間は変わらない、もしくは増加している	16) 母親は、自分自身が母親であるという実感をもっている
3) 母親は、明るい表情で児を見つめている	17) 母親は、保育器内の児がわが子であるという実感をもっている
4) 母親は、保育器内の児に積極的に触れようとする	18) 母親は、極度の恐怖、不安、混乱、動揺がない
5) 母親は、自然と児に話しかける	19) 母親は、極度の自責の念を感じていない
6) 母親は、児の状況や様子を医療者に尋ねる	20) 母親は、医療者に対して、自身の思いを表出したり、悩みを相談できる
7) 母親は、児の成長や状態に関して、喜びや嬉しさまたは不安や心配など感情表現ができる	21) 母親は、医療者に対して、母親から話しかけたり、依頼することができる
8) 母親は、児が見せる反応(目を開ける、手を動かすなどに気づいている)	22) 母親は、保育器の周りやNICU内の環境よりも、保育器内の児のことをよく見ている
9) 母親は、児が見せる反応に対して、何か反応を返すことができる	23) 母親は、モニター音などに過剰に反応していない
10) 母親は、児とのやり取りを家族や医療者に話す	24) 母親は、保育器やNICUの環境が、今の児には必要なものであると納得している
11) 母親は、児に何かしてやりたいと感じている	25) 母親は、父親と良好なコミュニケーションが取れている
12) 母親から児の世話に参加したいという思いや発言がある	26) 母親は、祖父母と良好なコミュニケーションが取れている
13) 母親は、児の世話に意欲的に参加する	27) 母親は、家族に対して、自身の思いを表出したり、悩みを相談できている
14) 母親は、今回の出産体験の受けとめができている	28) 母親の体調は万全である

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 1件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 天草百合江, 山口桂子, 服部淳子	4. 巻 23
2. 論文標題 保育器で過ごす子どもと母親の距離感に関するNICU看護師の認識 - 自由記述の分析より -	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 日本新生児看護学会誌	6. 最初と最後の頁 10-17
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計2件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 天草百合江, 山口桂子, 服部淳子
2. 発表標題 NICUに入院している子どもと母親の援助に関する文献検討
3. 学会等名 日本家族看護学会第24回学術集会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 天草百合江, 山口桂子, 服部淳子
2. 発表標題 NICU看護師が感じる保育器で過ごす子どもと母親の距離感が近づいた出来事 - 自由記述の分析より -
3. 学会等名 日本小児看護学会第26回学術集会
4. 発表年 2016年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----